勿忘草

暖かな
春の陽射しに誘われて

ゆっくりと、ゆっくりと
今ある季節が
新しい季節へと変わってく

受け入れること
流されること

許すこと

自然は大切なことを
ぼくたちに教えてくれる

受け入れるのは
辛い現実じゃなく

認めてやっても
良いンじゃないのか？

精一杯頑張ったその心

流されるのは
他人の意見じゃなく

もう我慢しなくても
良いンじゃないのか？

誰にも言えず
飲み込んだその気持ち
許すのは
傷付けた人の事ではなく
もう、やめても
良いンじゃないのか？
人を恨むその心
凍てつく氷の世界を乗り越え
勿忘草が語りかける
ゆっくりで良い
ゆっくりで良いから
今より少し
自分自身を愛すること
ぼくはいつも、いつまでも
そんなきみの側にいる
『ぼくの思いを忘れないで』